

学習会(子ども会)だより 9月号 前編

MY SKY 第9号

マイ スカイ

1995年9月12日火曜日発行(毎月第2・第4土曜後の火曜日定期発行)

発行者

板野中学校
学習会

編集・文責:吉成正士

なが 長かった(?)夏休みも終わり、2学期が始まってもう十日も過ぎてしまいましたね。どうですか?夏バテの影 響で朝寝坊や夜更かしはしていませんか?

私はというと、パソコンがなおってきたかと思うと、今度は「郵便物届かない事件」に巻き込まれてしまいました。私宛てに出された郵便物が、待てど暮らせど届かないのです。ある生徒が「返事まだ?」と言ってきてくれたから分かったようなものの……。郵便局に問い合わせはしたものの、未だ行方不明です。他にも「出したのに返事が来てない!」という人は、言ってきておいてくださいね。もう、ホントにさんざんです……。

ところで、今回も前回に引き続いて夏休みに行われたイベントについて報告しておこうと思います。それではどうぞ!



◎心の中の壁(7月27・28日:愛媛県にて)

この夏休み阿部先生と私は、縁あって愛媛県八幡浜市というところへ行ってきました。板中の全体学習について話をしてきたわけですが、その逆に大きなお土産を持って帰ってくることになりました……

着いた日の夕方、私たちは地元部落のおばさんに案内されながら、フィールドワーク(自分で歩いて見学し、学習すること)をしました。そこで見たものは、今もなお残る差別の現実でした。

まず驚いたのは、部落と部落外の間に、部落を囲むようにして作られているブロック塀です。2m程の高さで、見事に囲んでいるのです。しかもその上には、なんと有刺鉄線まで張り巡らしているのです!「おぞましい!これが人間のすることか!」これが私が見て一番初めに感じたことです。どうしてそこまでする必要があるのでしょうか?様々な怒りの言葉が頭の中を駆けめぐりました。いったい何をしたいのでしょうか?有刺鉄線の針金の先が、人の心を物語っているようでした。

また、山際に据えられた部落のため、急な斜面に不安定な柱で支えを作った家。今も名残のある50cm幅の狭い狭い道。今でこそ排水溝として改修しているものの、山からダイ

レクトに流れてくるものすごい水の量。

そして、開いた口がふさがらなかったのは、普通の道路が、突然ブロック塀で遮断されているという状況。そのブロック塀を境にして「こっちは部落、あっちは部落外」というわけです。そのために地元部落の子どもたちは、大きく遠回りをして学校に通わねばならないそうです。

私は地元の活動家にたずねました。

「すぐにもハンマー持ってきてブロック塀壊したろかいな！けど、どうしてもっと、市や行政に言わんのですか？」

それに対して、彼は静かに、けれども重々しい口調でこう答えました。

「行政に対しての働きかけは今もしています。それに、私たちがこの塀を壊そう思うたら一晩でもあれば壊せます。けど、取えてそれはしません。私たちは、部落外の人が自らこの塀を壊すような取り組みをしていきたいんです。たとえ無理矢理壊したとしても、心の中にある壁は崩れません。私たちは、その心の壁を崩したいんです。……」

私は、大切なことを忘れていました。気持ちが先走るあまり、大きな間違いを胸に抱くところでした……。

みなさん、まだまだ差別の現実厳しいのです。中には「差別なんか、もう目に見えないじゃないか」と言う人もいます。実際、県内のある地区のお父さんが「先生、もう同対事業で、どこも良うなつとんちがうん」と聞いてきたこともありました。確かに私たちの周りには、形としての差別はなくなったのかもしれませんが、しかし、私たちの心の中に、形ないものとして根強く残っているのかもしれませんが、全国に目を向ければ、まだまだ多くの部落の仲間が苦しい思いをしているのです。今もなお全国に、1000もの小さな小さな部落が同対事業を受けないまま、以前と変わらぬ生活を強いられていると言われています。私たちは、それら同志の閉ざされた心に触れるために、同対事業を継続させながら「共に立ち上がろう」と手を組んでいかななくてはなりません。同じ痛みを持った仲間を切り捨てることのないように、常に仲間を求め、歩き続けねばならないのだと思うのです。私は八幡浜に行って、ほんとにほんとに大きなお土産をもらったと思っています。どうかみなさんも、そのお土産をしっかりと噛みしめ、味わってみてください。



◎やっぱりすごかった全 奨！(8月3・4・5日・全国部落解放高校生奨学生集会・高知県にて)

今年の全奨は、比較的近くの高知県であったということで、無理を言って板中からも多くの仲間が参加しました。また、この機会に高知県の鏡野中学校との交流会も行いました。

1日めの午前中は高知への移動。午後からは全奨の開会式が参会者全体で始まりました。そこでは、狭山差別事件の石川一雄さんも登壇し、仮出獄にはなったものの、いまだに無罪を勝ち取れない激しい怒りを、力強く語ってくれました。夕方には中学生だけが鏡野中学校へ移動し、交流会をもちました。

2日めは5つに分かれている分科会場のうちの「親の生きざま・私の生い立ち」というテーマの会場へ向かいました。1日中話し合いに徹するのですが、いつものごとくものすごい盛り上がりのある会となりました。当然我ら板中の仲間も発言したのですが、本当にすごい会でした。

『父親がいないことで母を責めると、自分を泣きながら抱きしめてくれた』

『母に子どもができたとき、祖父母に無理矢理おろさせられ、戸籍までも変えられた部落外の母と部落の父の深い愛』

『2年前、部落差別が原因で家族はバラバラになってしまったが、自分は看護婦になる道を歩み続けたい』

『幼いとき原爆に被爆し、一度は死んでいたが奇跡的に息を吹き返した父。記憶を失ったこともあったし、部落外の友達に目の前で卒業証書を破られたこともある父。それでも頑張るお父さんが好き』

『学校が区別する中で、「障害」児をつくっている。実際私は字が書けない』

本当にいろいろな発言が出てきました。そのどれもが、すごい、圧倒されるようなものばかりでした。中でも、ずっと司会をしていた大阪府連の女の子と広島県連の男の子の発言には、感心させられました。この会で、1番初めに発言したのは徳島県連の高校生でしたが、それに続いて発言したのが、司会をしている彼女でした。

私は今、お父さんが死んでいません。中1の冬に死んじゃいました。といっても、それまでも家族団らんというわけではなかったんですが……。

私のお父さんはいわゆるヤクザで、いつも家族を困らせていた状態でした。お母さんが一人で稼いで、私とお兄ちゃんを大きく育ててくれたんです。お父さんからの収入はいつもないし、お母さんは24時間働いていました。それを私とお兄ちゃんは見てきてるから、お母さんには感謝の気持ちでいつもいっぱいです。でもそういう一生懸命なところを見ているからこそ、自分も何か一生懸命しようっていう気持ちがわ

生懸命なところを見ているからこそ、自分も何か一生懸命しようっていう気持ちわいてくるんです。だから、家計が苦しかったときにも、お母さんが一生懸命働く姿見ながら私は子ども会に行っていました。自分は「いつもみんなと一生懸命やりたい」みたいなことをいつも思ってたから、今でも子ども会活動とか好きです。

私が小さい頃はお父さんもいつも可愛がってくれてたんだけど、だんだん大きくなるにつれて、もう私らも「お父さん、お父さん」行かへんし、何か独りぼっちになった気分になるみたいで、いつも酔っぱらって帰ってきたり帰ってけえへんかったりしてて、そのたんびにお母さんボコボコにされたん見てきて……何回も入院したことがあるくらいひどいことされてきたし……だけどそんなお父さん見て「イヤヤ」とかいうんじゃなくて「かわいそう」って思ったんですよ。「自分に一生懸命にできへん人やな」と思って私は反対に「ああこの人かわいそうやな」という目を見てたんです。

私のお母さんは、私に言わせたら、尊敬する人にあたる人です。結局、もう十何年間も苦勞してきたお母さんなんやねんけど。お父さん事故で死んでんけど、そのことは私ら家族3人にとって凄く悲しいことで、本当に悲しかって、3人で泣いたけど泣きまくって……でも、今思えばあのままお父さん生きてたら、もっと滅茶苦茶にされてた気がするし、だからって死んだことには「やっぱりたった一人のお父さんやな」というのがあるから、なんぼ滅茶苦茶されてもたった一人のお父さんやから、私は凄く悲しかってん。

今は3人で平凡に暮らしてるねんけど、私のお母さん体が弱くて、高校入試の2日前にも入院したりして、勉強なんて手につかん状態で、1週間くらい前から勉強してへんかって「もうどうでもいいや」と思いながら高校受けたから、合格発表見ても「あっ受かった」って思っただけやし、他の子で泣いて喜んでる子とか見たらなんか心がグサッて痛んだし「何しとったんやろ」って思ったんです。そこは私の悪いところで、何でも勉強に関しても一生懸命にせなあかんと思いました。私のお母さん体悪いつて言ったけど、それから3カ月入院してたんです。私のお兄ちゃんは三重県で寮生活送ってるから、私その3カ月間一人暮らしやってんけど、そのときに凄く思ったんは、お父さんずっとおらんかって家に帰ってけえへんかったけど、でもいつも隣りに誰かいたし、お兄ちゃんかお母さんがいたけど「やっぱり誰もおらん家ってこんなに寂しいねんな」って思って、そのときは凄く悲しかったような、寝るときも寂

しかったような気がするんです。みんなはどんな生活してるかわからへんけど、寂しくなったり悲しくなったりしたときとかに、私はあまり人にはそういう相談せんと一人でいろいろ考えるんです。だから、みんなも自分を見つめるっていうかな、お父さん、お母さん、お兄ちゃんを見つめてほしいなと思います。……

この会に参加した仲間の思いや感想を、もうみなさんは聞いたでしょうか。この発言につながって、板中の多くの仲間が発言していくことになります。

世の中にはいろんな境遇の中で生活している人がいます。私たちの知っている世界は、その中のほんの小さな一部分にすぎないのです。そのことにフタをしてしまうのではなく、互いに出し合い、認め合い、今までに作られていた溝を埋め合うことで、これまでとは全く違った人間関係が作られていくのではないのでしょうか。そういう社会にしていくなために、私たちは同和教育をしていくんだと思うんです。認め合うということは、互いの生命を尊重するということであり、そういう社会のもとでは、生活や命、そして人間としての誇りを失うことはありません。これは、どんな人にとっても心落ち着ける社会ではないのでしょうか。部落問題を考えることで、私たちは今の社会の問題を考え「これからどうしていかなければならないのか」ということを見つけることができます。他にも、今回の全奨で出てきた在日外国人問題や「障害」者問題、平和問題など、私たちは様々な角度から社会問題を考えることができます。そういったことに目を向けながら、これからの社会を担っていく私たちが、今、学習するのです。いつの時代も社会を変えていくのは、エネルギーに満ち溢れた若い力です。つまり私たちなんですから！

次に全奨に参加した中学生の感想文を、少しだけ紹介します。

僕は、全奨に参加して本当によかったと思っています。本当のことを言うと、初めは半分観光気分だった。でも、交流会とかしていくうちに、その考えは変わっていった。ずっと悩んでいたことをみんなの前で言えし、その事についてみんなが続いてくれたので、嬉しかった。

それと、中学校を卒業して真友会（板野町高校生友の会）に参加するかしないかとても迷っていたけど、この会に参加して、答は簡単に出た。僕は、自分をもっとキラキラ輝けるような人にしたいと思う。だから真友会に入ろうと思う。全奨に行って「ほんまに一生懸命頑張っている子はキラキラ光っている」っていうか、ほんまにカッコ良かったです。

そして僕が学んだことは、部落問題学習だけ考えとったらあかんということです。

他に在日韓国朝鮮人問題や「障害者」問題など、いろんな差別を考えていかないと
いつか自分が差別をしてしまうようになると思います。だからこれからはもっと視野
を広くして、もっともって考えを深めていきたいと思いました。

僕はこの全奨で学んだことを、ふだんの生活に生かして、もっと自分を磨いていき
たいです。そしてこの会に参加できなかった子にも話をしていって、一緒に頑張って
いきたいと思います。そして、差別を許さない、我慢しない、本当に自分自身を誇れ
る人間にしていきたいと思います。

3年男子

※

僕は、全奨に行けることが決まったときお母さんに言おうとしたけど「反対された
らどうしよう」という気持ちがあった。けど「全奨に行ってくる」って言ったら、お母
さんは「うん、行ってきな」って言ってくれて、すごくうれしかった。それに家を出る
ときも「送っていこうか」とか言ってくれて「応援してくれてるんだ、頑張らな！」
と思った。

バスの中に乗って途中から話し合いを始めて、高校生のAMくんの意見にあった「解
放奨学金をもらってるっていうことは、差別なくすためにもらってるんだから、そ
れを無駄にしてはいけない」って言って、僕は「部落に生まれた人っていうのは、み
んなの先頭に立って差別をなくしていく一人になっていくということだ」って思った。

二日目分科会で「親の生きざま・私の生い立ち」っていう会場にいた。そこでもす
ごく勉強になった。結婚差別のこととかで、駆け落ちのこととか出てきて、そこで思
ったのは「駆け落ちは、その差別から逃げることになるんじゃないかな」って思った。
「差別を許してるんじゃないかな」って思った。そんな風になったら、親を説得して
から結婚したいなって思った。だから発表した。やっぱりすごく緊張して、何言っ
てるのかわからなかったけど、できてよかった。後から助言者の人も「駆け落ちする
くらいの度胸で親を説得させなければいけません」って言ってたけど「本当だなあ」っ
て思った。

2年男子

※

高知に行って、まず印象に残ったのは、鏡野中学校との交流会のことです。板中
のみんなが発表しているので、僕も発表しました。発表したことは、自分の親のこと
です。「自分の親は、父さんが部落出身で、母さんが部落外ということで結婚差別を
受け、親や親戚に反対されたそうです。でも父さんは、部落差別の歴史やおかしさな

どを勉強して、親戚^{しんせき}などと話をしたそうです。そのおかげで、一部の親戚^{しんせき}と、お母さんのお母さんは理解してくれました。でも、お母さんのお父さんはいまだ反対しています。だから僕はその人を見たことがありません」と発表しました。これを母から聞いたときはショックでした。このことは小学校の頃から言うのを我慢してきました。でも、今語れることができ、それに^{こた}応えてくれたので^{すご}凄くすっきりしています。

次に全奨で印象に残ったのは分科会のことです。広島の人が、自分のおばあちゃんのことを話してくれました。その人もやっぱり差別を受けて苦しんでいる仲間の一人でした。でも、おばあちゃんに「人の心がわかる人間になれ」と言われて今も頑張っていると言いました。その人は、その事を明るく堂々と発表していました。すごく良かったです。これを聞いていて「自分も発表せな」と思い、交流会で話した自分の親のことなどを発表しました。その事を嘘^{うそ}にしたくない。全奨で学んだことを、全体学習などで言っていく。そして、全国に同じ悩みを持った多くの仲間がいることを忘れず、頑張る続ける。

1年男子



◎あの子^こがいたから自分^{じぶん}が変^かわれたんよ……（8月8・9日：学習会・泊研修・あいあいランドにて）

今年も夏休み恒例^{こうれい}の学習会・泊研修が行われました。本当は紙面^{しめん}をいっぱいって紹介しなければいけないし、そうしたいのですが、またあまりに記事^{きじ}が多くなってしまうので、ほんの少しだけ触^ふれて、後はみなさんに課題^{かだい}として投げかけておきたいと思います。

1日目、各学年に分かれての討論会^{とうろんかい}と、ファイヤーストームを囲んでの全体の討論会^{とうろんかい}を持ちました。私は3年生の分散会^{ぶんさんかい}に参加していたのですが「本当にいい思いをした」と、今でも思っています。日頃^{ひごろ}集まれない多くの仲間が寄り集まり「今」の思いを話していく。3年生にとっては今までなかった雰囲気^{かんしき}で、（個人的な感傷^{かんしやう}が入るのですが）本当に嬉^{うれ}しかったのです。今までに参加したことのない子が、発言^{はつげん}をもしていく。「今までにこんなにつながれたことはなかった……本当に良かった」と思えるような話し合いでした。その中であった発言の一つがタイトルになっている言葉です。目に涙を浮かべながら、照れ笑^{てわら}いでそれを隠^{かく}し、嬉^{うれ}しそうにつぶやくこの一言……。静かに私の心を打ちました。うれし涙^{なみだ}っていいですね。本当に差別がなくなったとき、世の中の人みんなが、こんな涙を流すのでしょうか。

一泊研修に参加したみなさん、どうか思い出してみてください。あの日の情景^{じやうけい}を……あ

の日のさざめく夜の空気を……パチパチと身を焦がすように照らす熱き炎に、想いを寄せ合った一瞬を！

この日の思いは、きっと、これからの部落問題学習の時間や全体学習で溢れ出ると信じます。学年を問わず、一泊研修に発言できなかった子や参加できなかった子にすれば、心苦しい思いをするかもしれませんが、どうか引っ込むことなく、共に歩いてほしいと、心から願います。



◇ ◇ 今後の日程 ◇ ◇

いよいよ板中祭も近づいてきました。各クラスやグループで行う出し物の練習にも熱が入ってきているようです。特に今年は「全体学習その後一僕たちの闘い」「水平社バンザイ」「市長さん、差別者はあなたです！（オールロマンス事件）」や人権部による研究発表など、部落問題にふれた作品が多いようです。これを機会に、みなさんも日頃の部落問題に対する学習をより一層深めてみましょう。

また、今月28日には1年B組が全体学習を、来月5日には3年B組が全体学習を行います。特に3年B組は解放運動についての資料を扱うようなので、3年生のみなさんはその原点である「水平社バンザイ」を、瞬きもせずに見ておきましょうね。良い機会だと思いますよ。

9月は行事がたくさんあって慌ただしいですが、それら行事に取り組む中で、生活の中に潜むいろんな差別を見つけ、考えていくことで、長い夏休みによって冷めた熱を、再び燃え上がらせておきましょう！1年生、3年生のみなさん！頑張りましょう！



☆ 9月16日(土)・17日(日) 板中祭(体育祭・文化祭)

★ 9月28日(木) 1年B組1年全体学習

☆ 9月30日(土)～10月3日(火) 2年生修学旅行

★ 10月5日(木) 3年B組3年全体学習

☆ 10月9日(月) 徳島県中学校統一研究大会

★ 10月17日(火) 2年B組全校全体学習(第2回板野中学校同和教育研究大会)